

豊竹古靱大夫と

帝國藝術院賞

日本因協會社文樂座櫓下豊竹古靱大夫は帝國藝術院長より左の通知書を接手せり。

昭和十九年四月四日

帝國藝術院長 清水 澄印

金杉彌太郎殿

拜啓時下益々御清穆ノ段奉賀候
陳者今般帝國藝術院會員總會ノ
議決ニ依リ貴殿ニ對シ帝國藝術
院授賞規則第一條ニ依リ帝國藝
術院賞ヲ授與セラル、事ト相成
候間此段御通知申上候

追テ授賞式ノ期日其ノ他ニ關シテハ後日
決定次第御通知可申上候間爲念申添候

時恰も文樂座五月興行中なれば其の打揚げを待ち五月二十六日上京文部省に出頭し授賞式舉行せらる、其の次第左の如し

第三回授賞式次第

昭和十九年五月廿七日(午前十一時)於文部省

諸員着席
開會ノ辭
國民儀禮
院長挨拶
授賞ノ理由説明
第三部 豊竹古靱大夫ノ金杉彌太郎
院長 授賞
文部大臣祝辭
閉會ノ辭

賞 記

帝國藝術院ハ豊竹古靱大夫事
金杉彌太郎ニ對シ藝術ノ進歩ニ
貢獻セル顯著ナル業績アリト認メ
本院授賞規則第一條ニ依リ茲
ニ帝國藝術院賞ヲ授與ス

昭和十九年三月三十一日

帝國藝術院長 清 水 澄

第一號

帝國藝術院授賞規則

(參考)

(昭和十六年五月五日制定)

第一條 帝國藝術院ハ卓絶セル藝術作品ニ對シテ賞ヲ授ク

前項ノ外藝術ノ進歩ニ貢獻スベキ顯著ナル業績アリト認ムル者ニ對シテ賞ヲ授クルコトヲ得

第二條 賞ハ賞狀及賞金トス

第三條 賞ハ帝國藝術院會員ニアラザル者ニ之ヲ授ク

第四條 賞ヲ授ケントスルトキハ部會ノ推薦ニ依リ理由ヲ附シテ總會ノ承認ヲ經ヘシ

昭和十九年六月十日 文樂座に於ける藝術院賞受領祝賀會左の如し

豊竹古靱大夫

帝國藝術院賞受領祝賀會

人形淨瑠璃協會主催

午前九時三十分

一開會

一宮城遙拜

一默禱

一祝辭

一記念品贈呈

一謝辭

一解瑠璃說

一素淨瑠璃

父は唐土
母は日本

國性爺合戰獅子ヶ城の段

閉會

斯くて餘興映畫となる

映畫「銃後の大阪」

第七拔萃 先代萩御殿の場

十一時終了

昭和十九年六月十五日

主催 日本因協會

文樂座に於て開催せる祝賀會順序左の如し

一開會の辭

竹本濱大夫

一挨拶

日本因協會代表 鶴澤綱造

一祝辭

日本因協會 竹本住大夫

一祝辭

大阪市長

一祝辭

人形淨瑠璃協會代表 江崎政忠

一祝辭

白井松次郎

一祝辭

日本素人淨瑠璃會代表 井上五勢

一答辭

豊竹古靱大夫

一閉會の辭

竹本大隅大夫

目出度無事解散せり